

1.外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970101818		
法人名	有限会社 とらい・あんぐる		
事業所名	グループホーム 花水木		
所在地	奈良市古市町2157-5 (電話)0742-61-5556		
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成20年5月13日		

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 4. 4	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有() 円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	奈良春日病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体である有限会社とらい・あんぐるは当施設の他にグループホーム、幼稚園、管理会社などを経営されている。近鉄奈良からバスで15分程の所に当施設はあり停留所が目の前にあるなど交通の便は良い。管理者は他の施設で高齢者介護の実践を積み、豊富な経験をもとに、「おもいこみのケア」から「気づきのケア」を目指し、職員と共にその実践に取り組んでいる。尊厳あるその人らしいケアで、聞き上手な職員を相手に利用者は良く話しをされ、明るく、のんびりとした日々を送っておられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	職員研修に関しては、計画的に管理者が研修をされたり、外部研修の報告を兼ねて職員へフィードバックするなどの工夫が望まれる。市町村との関わりや、周辺施設への理解、協力への働きかけは徐々に進んでおり、一層の取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価を作成しコピーを職員に見せておられるが、作成時より職員が参加することで、外部評価の意義や具体的な改善点が理解されると思われるので、自己評価作成を職員と共にされることが望ましい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	現在、取り組み中とのことである。早い立ち上げと継続されることを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族会はあるが、あまり活動はされていない。個々の家族には、来訪時に声掛けし、話しやすい雰囲気を作ると共に、相談、苦情に対しては職員へも周知徹底をはかり、素早く対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域の幼稚園、小学校と相互交流があり、町内の祭りに休憩場所の提供や幼稚園のお迎え場所の提供など、利用者を交えての交流がされている。地域との連携は今後の課題である。

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの創設に伴い、今までの理念を基にして地域との交流を盛り込んだ理念に見直されてはどうか。	○	地域交流に努力されているので、地域密着の理念をおり込み、実践されることを期待します。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回行なわれるミーティングでは、尊厳を大切にその人らしい生活援助の方法などが話されている。管理者は運営者との連絡を密にし、運営方針の確認をしっかりとっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会には加入していないが、敬老会に招待されたり、町内の祭りの休憩地として場所を例供したり、幼稚園のお迎え場所の提供など地域との交流を図っている。施設行事にも地域の方が参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を理解されているが、自己評価作成に職員の参加はなく、出来上がった評価を見せている。	○	評価を実施する意義の理解や具体的な改善点などは、自己評価作成を管理者だけとするのではなく、職員と共にされることで、より理解が深まり現実に則した改善方法なども見つけられると思われる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、取り組み中である。	○	運営推進会議の立ち上げに向けて、関係者へ交渉中とのことで、一日も早い立ち上げをされ、継続されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターと交流し情報収集やアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度施設便り(花ことば)を発行し、受診記録や行事案内、個々にあったことなども知らせている。金銭に関することは、運営母体の管理会社がしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はあるが活発な活動はなく、行事案内で参加を呼びかけているが、参加者は少ない。個々の意見や要望は来訪時や電話で伺い、職員にも周知を図り素早い対応をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の情報は職員全員が共有しており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしているが、覚えていない利用者が多い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は職員に知らせているが、費用は自己負担で行く人は少ない。現状に沿った研修はミーティングの時を利用し話している。	○	研修計画をたて、計画に沿って管理者が研修をされたり、外部研修の報告を兼ねて職員にフィードバックするなどの工夫が望まれる。外部研修については参加費の負担軽減や職員の参加支援などの体制作りが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者職員と交流を持ち、意見交換や情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を実施しそのまま入所される利用者もあるが、まずは家族の協力を得て納得するように説明をしてもらい、その後は職員が利用者の話を傾聴し、思いのままに生活しながら馴染んでもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	明るくにこやかに常に前向きに生きる姿に教わることは多いと、職員の弁。以前の経験を基にお茶やお花を生けてもらったり、話し相手をするなどその人が生き生き出来る場面作りの支援に努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格を把握したうえで、じっくりと話を聞き利用者の意向に沿った生活が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の気付きを介護ノートに記録し、これを基に介護計画書を作成している。家族にも説明されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに評価、見直しがされている。変化が生じた時は、見直しカンファレンスを行い、期間に関係なく見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望によりかかりつけ医の受診や理美容院の利用時には移送のサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度提携病院で受診している。利用者のこれまでのかかりつけ医の受診は、余り遠くなければ、送迎支援している。受診結果は電話で家族に報告し、その時要望や意見も聞くようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで看取った人は無く、現在は身近にも相当する人はいない。医師や家族の意見を踏まえ考慮中である。		今後ターミナルケアを考えておられるならば、ターミナル支援の理念と体制を整え、家族とも取り決めを文書で交わしておかれるのが良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応には気をつけ、入室時には声掛けやノックをしている。個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方にめりはりをつけるためにも大まかな一日の流れはあるが、体調や気分によっては柔軟な対応をしている。出来るだけ利用者の希望に添うよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食材選び、下準備、下膳など時々は一緒にしている。職員は、おしゃべりをしながらさりげなく介助しつつ、一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、昼食後から夕食前までの時間帯に入浴している。希望があれば毎日の入浴も可能である。リフト使用者は昼間にゆっくり入っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に2回お茶会を開催したり、おしゃれに関心のある人にはお化粧を勧めたり、各居室のカレンダーを手作りするなど、それぞれの楽しみごとを見付け支援している。年に1度、一泊旅行が実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩をしたり、時にはドライブ、買い物に出かけるなどしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前面道路は交通量が多く、建物の構造上玄関が皆のいる居間からは見えないため鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難訓練には参加しているが、施設の防災設備や管理体制は十分ではない。	○	消火器や誘導板は設置されているが、火災の早期発見に備え火災報知機の設置が必要と思われる。防火管理体制を整え、実情に即した避難訓練や研修を実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量1800CCをめやすに、毎食時に汁物を出し、ポカリや紅茶を出しているが、記録はされていない。食事摂取量は毎食記録されている。		栄養バランスやカロリー計算など、時には栄養士に相談されアドバイスを受けられると良いと思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には皆がゆったり座れるように、3台のテーブルが置かれソファを置いて、くつろげる空間になっている。手作りのこいのぼりが壁に泳いでおり、習字や写真などが貼られている。トイレは、車椅子利用には少し狭い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い思いの衣装ケースが置かれて整理しやすいようにシールが貼られている。手作りのカレンダー、お気に入りの人形、家族との写真、お花などが飾られその人らしい居室になっている。居間と居室、各居室間は壁で仕切られているが、上部に空間があり、プライバシーを守りつつ、人の気配が感じられる構造になっている。		